

トビウオ通信 (2月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 12 年中型まき網の漁獲動向》

総漁獲量・金額

浜田市漁協所属の中型まき網による浮魚類の漁獲量と CPUE (1 日 1 隻当たり漁獲量) の変動を図 1 に示します。

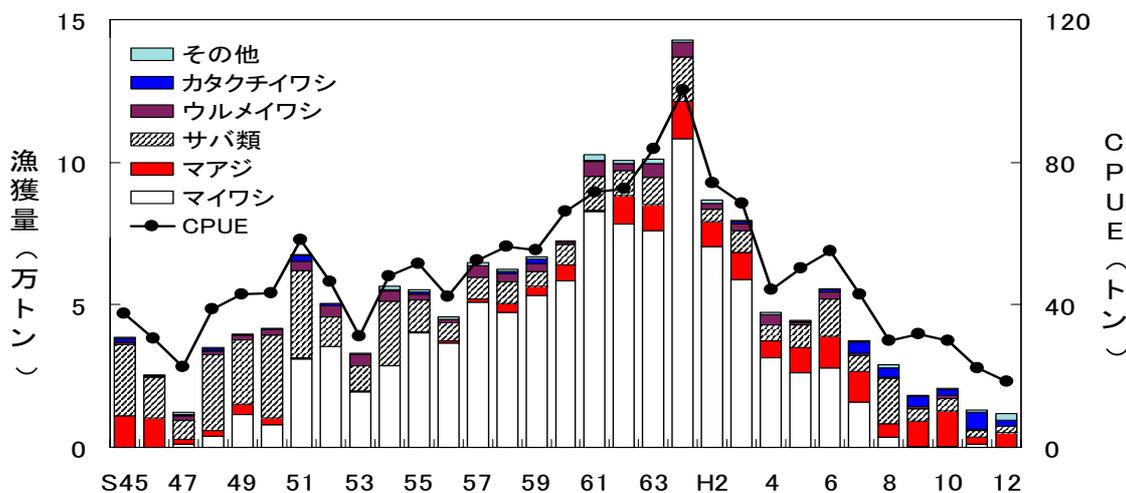


図1 浜田港所属の中型まき網船による魚種別漁獲量とCPUEの推移

浮魚類の漁獲量は、マイワシの減少に伴い、平成元年をピークに減少傾向にあります。平成 12 年の総漁獲量は 12,942 トンで前年の 88%、平年 (過去 10 ヶ年平均) の 27% となり不漁だった前年をさらに下回り、過去 30 年間で最低となりました。マアジは前年に比べ増加しましたが、その他の魚種は全般的に低調で、特にマイワシ、ウルメイワシは過去 30 年間で最低の値となりました。

魚種別漁獲量の割合 (図 2) を見ると、マアジがトップで 44%、次いでサバ類が 2 位で 23%、カタクチイワシが 3 位で 17%、ムロアジ類が 4 位で 6% となり、この 4 魚種で全体の 90% を占めました。

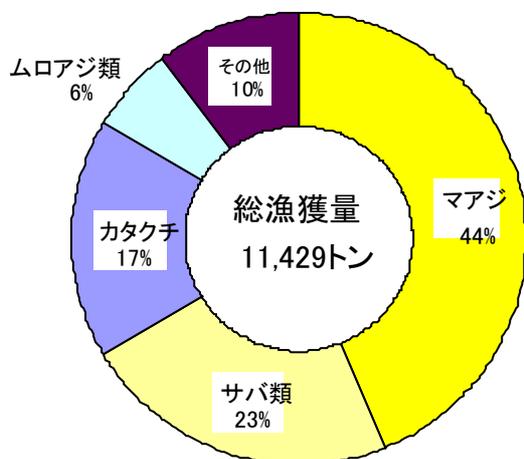


図 2 平成12年浜田市漁協所属の中型まき網による総漁獲量と魚種別割合

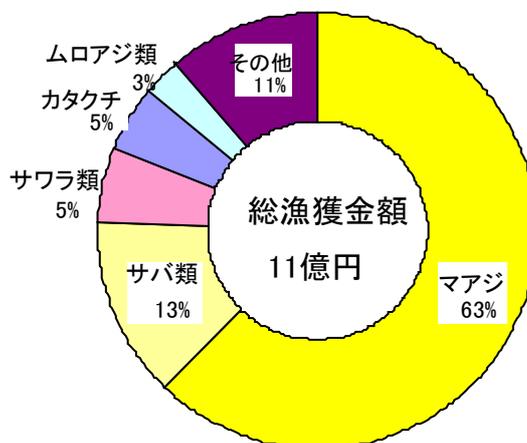


図 3 平成12年浜田市漁協所属の中型まき網による総漁獲金額と魚種別割合

総漁獲金額は約 11 億円で前年をやや下回りました。魚種別ではマアジがトップで 63%、次いでサバ類が 2 位で 13%、サワラ類が 3 位で 5.5%、カタクチイワシが 4 位で 4.9% となり、マアジの割合が非常に高く、また、量ではそれほど多くないサワラ類が上位を占めました（図 3）。

魚種別・漁獲量の推移と今後の見通し

浜田市漁協所属の中型まき網による魚種別漁獲量の推移を図 4 に示します。

マアジ

昭和 62 年に 1 万トンを超え、その後、増減はあるものの比較的高い水準にあり、まき網漁業の最重要魚種となっています。しかし、傾向としては減少ぎみで、資源水準は高いものの、油断出来ない状況にあります。

最近では、当歳魚、1 歳魚が漁獲の大部分を占めており、漁況は当歳魚の来遊量の多寡に大きく左右されます。昨年末から今年初めにかけての漁獲状況から、平成 12 年の当歳魚の発生量は、過去 2 年間に比べやや多いと思われる。

サバ類

昭和 50 年代半ばから漁獲量は 1 万トン前後で低調に推移し、平成 9 年以降は 5 千トンに満たない状況が続いています。マアジと同様、漁獲の主体は当歳・1 歳魚といった若齢魚で、漁況は当歳魚の来遊量の多寡に左右されます。しかし、ここ 4 年は当歳魚の来遊量が少なく、漁獲は低迷しています。対馬暖流域全体でもマサバの資源水準は低く、しばらくは低水準状態が続くと思われる。

マイワシ

平成元年をピークに急激に減少し、最近では数百トン～1,000 トンの範囲で変動していましたが、平成 12 年は 51 トンと昭和 45 年以降最低となりました。全国的にもマイワシ資源は低水準で、当分はこの状態が続くそうです。

ウルメイワシ

漁獲量ではそれほど大きな割合を占める魚種ではないのですが、島根県東部では、加工品として需要が高い魚種です。浜田では昭和 61 年をピークに減少傾向で平成 12 年は 18 トンとほとんど漁獲がない状況でした。これは対馬暖流域全体でも同様で、資源的には急激な減少傾向にあります。

カタクチイワシ

平成 7 年以降急激に漁獲が増加しており、マアジと並んで現在のまき網漁業の主要魚種となっています。しかし、年変動が大きいため、資源は高水準ですが、来遊量の予測は困難です。

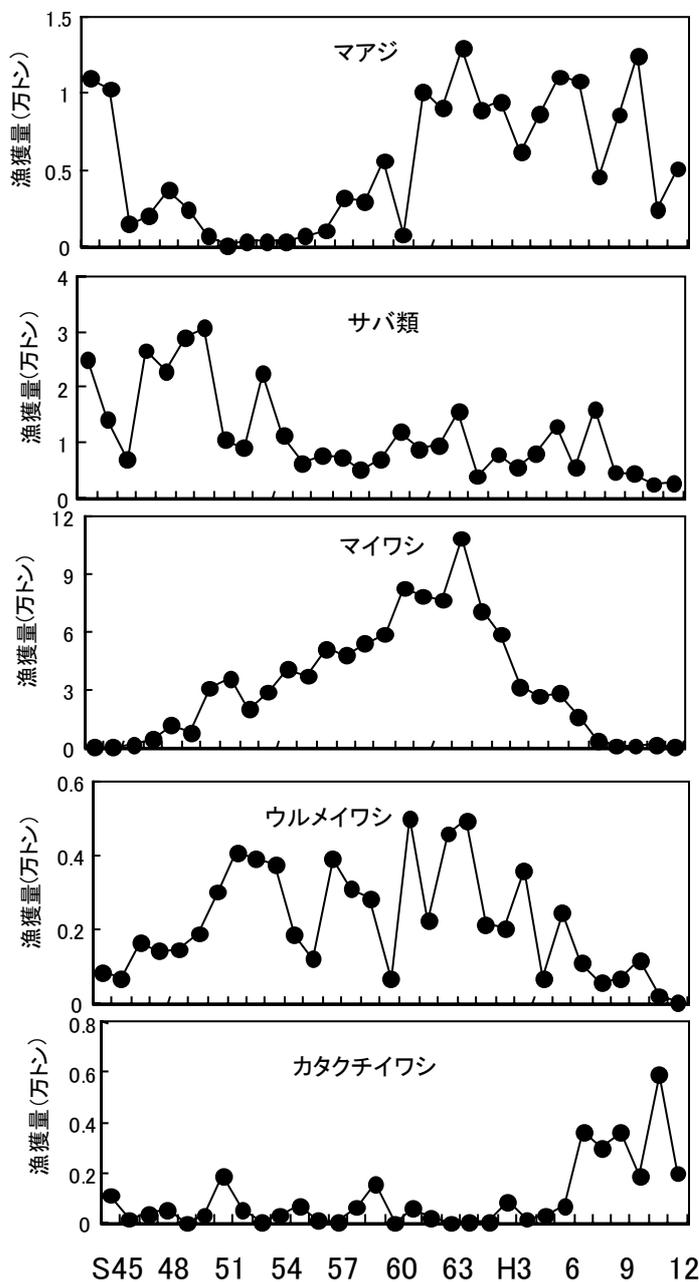
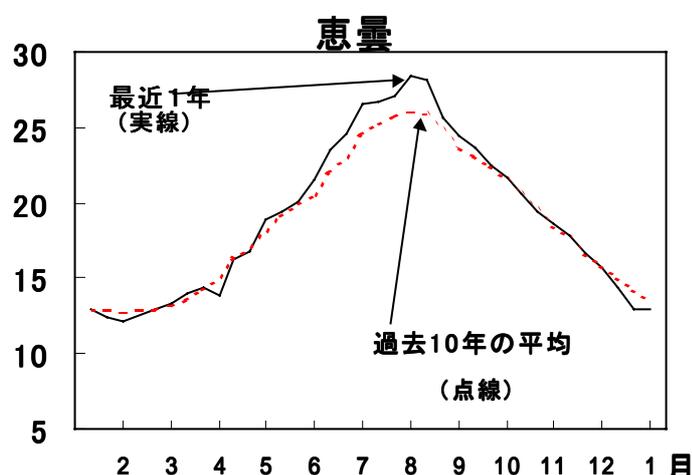
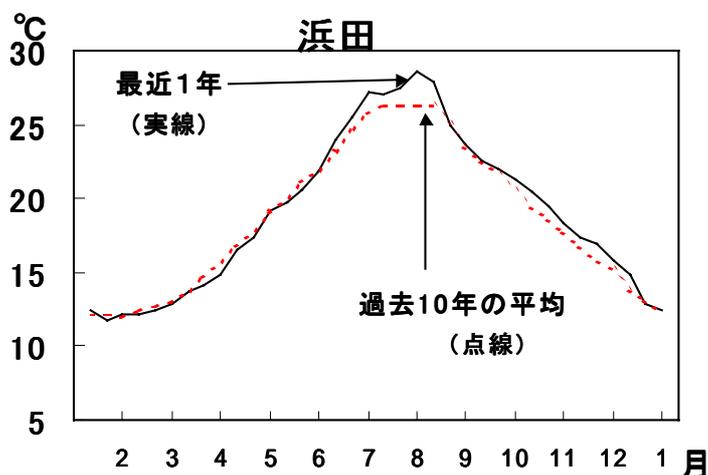


図 4 魚種別漁獲量の推移

《 1月の海況 》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	13.4	+0.2	平年並み
恵曇	13.4	-0.9	やや低め

1月の月平均水温は12月に比べ浜田、恵曇とも3.3℃下降しました。浜田では「平年並み」、恵曇では「やや低め」の水温経過となりました。



2月上旬の海洋観測結果によると、山陰沿岸域は島根県沿岸部から隠岐諸島にかけて、表層から底層(100m)まで12℃以上の暖かな水塊に覆われています。また浜田沖北方70マイルには冷水域が形成されています。山陰海域の表層および中層の水温は全般的に「かなり高め～甚だ高め」、底層では冷水域周辺で「やや低め～かなり低め」のほかは「やや高め～かなり高め」でした。

《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ、マサバ主体に544トン、総水揚げ金額は4,037万円でした。1統当りの漁獲量は136トンで、前年の98%、平年の21%と低調でした。水揚げ金額は1,009万円の前年並となりました。恵曇港では、マサバ、マアジ主体に総漁獲量311トン、総水揚げ金額は1,631万円でした。1統当りの漁獲量は104トン(前年比:167%)、水揚げ金額は544万円(前年比:313%)でした。浦郷港ではマサバ、マアジ主体に総漁獲量515トン、総水揚げ金額は5,439万円でした。1統当りの漁獲量は515トン(前年比:55%)、水揚げ金額は1,088万円(前年比:81%)となりました。県東部では前年に比べカタクチイワシが大きく減少しています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に166トンで、前年を大きく上回りました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカを中心に34.2トンで、こちらも前年を上回りました。前月に引き続き、沖合に分布していたスルメイカが山陰沿岸に南下してきたため漁況が活発化したものと思われます。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は300トン、総水揚げ金額は1億7,046万円、1統当たり漁獲量は50.1トン(前年比104%、平年比106%)、水揚げ金額は2,841万円(前年比128%、平年比133%)でした。漁獲の中心はソウハチ(前年比108%)とヤリイカ(前年比857%)でした。

恵曇港の総漁獲量は149トン、総水揚げ金額は9,604万円、1統当たり漁獲量は37.2トン(前年比125%、平年比103%)、水揚げ金額は2,401万円(前年比110%、平年比117%)でした。漁獲の中心はアカガレイ(前年比218%)とソウハチ(前年比164%)でした。

【小型底びき網漁業】

大田市・和江両漁協とも時化の日が多く、出漁日数が減少したことにより、量・金額とも前年に比べ6～31%減少しました。一方、1航海当たりの量・金額は前年を上回りました。この時期はソウハチ中心であり、両漁協とも好調に推移しています。特に和江漁協では1航海当たりの量・金額が前年の1.8～2倍となっています。また今漁期好調であったヤリイカの漁獲量は、前月の18%に留まり、終漁の兆しが見られます。

【定置網漁業】

隠岐地区ではスルメイカが、石見地区ではブリが主体の漁況となっています。前月に比べると、出漁日数も減少し漁獲量、水揚金額も減少していますが、県東部以外では、前年および前々年同月を漁獲量、水揚金額とも大きく上回っており、1月としては比較的好調な漁況でした。隠岐地区のスルメイカ漁は前年および前々年より2ヶ月程度漁期が早まっています。最近では2～3月にスルメイカが大量に漁獲されていますが、今年の漁況予測は不透明です。

【釣・縄】

時化が続き出漁日数も大幅に減少したことから、各地とも低調な漁模様となっており、漁獲量、生産金額とも前月の2～3割程度まで落ち込んでいます。前年同月と比較しても、5割程度の漁獲水準にとどまっています。前月まで各地で好調な水揚が続いたクロマグロの漁期はほぼ終漁し、県西部、東部ではブリやサワラが漁獲の主体となっています。隠岐地方ではまだクロマグロの漁獲が続いていますが、漁獲量は半減しています。

漁獲統計

平成12年 1月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	21	マアジ・マサバ	25.9ト	544ト
	恵曇	12	マサバ・マアジ	25.9ト	311ト
	浦郷	28	マサバ・マアジ	18.4ト	515ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	99	スルメイカ	1,679Kg	166ト
	西郷	51	スルメイカ	671Kg	34.2ト
沖合底びき網	浜田	36	ソウハチ・ヤリイカ	8.3ト	300ト
	恵曇	28	アカガレイ・ソウハチ	5.3ト	149ト
小型底びき網	和江	226	ソウハチ・アンコウ	580Kg	131ト
	大田市	128	ソウハチ	543Kg	70ト
定置網	浜田	20	ブリ・マアジ	429kg	8.6ト
	恵曇	6	カワハギ類	126kg	0.8ト
	浦郷	25	スルメイカ	1,478kg	36.9ト
釣・縄	浜田	350	ブリ・アマダイ	31kg	10.8ト
	五十猛	109	ブリ・カサゴ類	13kg	1.4ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。